

単一胚盤胞移植周期における胚盤胞の形態的な質パラメーターに基づく妊娠の予測

胚盤胞の質は着床や妊娠の可能性に大きく関連します。そこでGardner & craft(1999)の方法に従い、胚盤胞のステージ(1～6)、内細胞塊(A, B, C)、栄養外胚葉(A, B, C)を評価し妊娠率を予測した結果、妊娠継続に有意な予測因子は胚盤胞の拡張のみでした。従って胚盤胞移植を選択する際には、第一に拡張／ハッチングのレベルが4～5または3の胚盤胞を選び、第二に内細胞塊グレードがAのもの、第三に栄養外胚葉のグレードがAのものが良いと考えられています。

胚盤胞のステージ	内細胞塊のグレード	栄養外胚葉のグレード	妊娠率
4～5	A	A	48%
4～5	A	B	45%
4～5	A	C	44%
4～5	B	A	42%
4～5	B	B	38%
4～5	B	C	37%
4～5	C	A	35%
4～5	C	B	32%
3	A	A	25%
3	A	B	22%
3	A	C	21%
3	B	A	20%
3	B	B	18%
3	B	C	17%
3	C	A	16%
3	C	B	14%

出典：Van den AbbeelE,BalabanB,ZiebeS,LundinK,KleinBM,HelmgaardL,ArceJC

●胚盤胞凍結の基準について

当院では、胚盤胞での凍結基準をグレード4BC以上としています。胚盤胞に発育していても、初期胚盤胞やグレードCCの場合、凍結は行っておりません。

*この方法は希望者にのみ実施します

体外受精・胚移植の着床不全の原因のひとつに受精卵と子宮内膜の反応不全があります。最近の研究では着床準備のためには、受精卵からのシグナル(胚因子)が必要であり、それと同調子宮内膜は着床環境を整えている(Implantation windowを開く)と考えられています。

胚盤胞移植単独ではそのシグナルを送るタイミングがないため着床不全の原因の1つになると言えます。そこで胚培養液(ECS)を胚移植数日前に子宮に注入することにより、子宮内膜が刺激を受け、受精卵の着床に適した環境を作り出すことが解明されました。

このように移植前に胚培養液を注入する方法をSEET法と呼びます。SEET法には、自身の胚培養に使用した胚因子を含む胚培養液を使用する「①子宮内膜刺激胚移植法」と一般胚培養液を使用する「②簡易法」の2種類があります。

	①子宮内膜刺激胚移植法	②簡易法
方法	胚培養液(ECS)100 μlを子宮内に移植カテーテルを用いて注入。注入後は約15分の安静にて帰宅いただきます。その後いつも通り生活してください。注入に関しては人工授精時と同じような仕様で、痛みなどはありません。	
使用培養液	自身の胚を胚盤胞まで培養した培養液(conditioned medium)を凍結保存しそれをSEET法に使用	一般培養液を使用
時期	凍結融解胚盤胞胚移植の2~3日前	胚盤胞移植の2~3日前
回数	1採卵で1回の胚移植時のみ実施可能	回数制限なし
	胚盤胞まで培養した培養液を胚盤胞とは別に凍結保存します。培養液の容量より1回の実施分しかありませんので凍結回数に関わらず1採卵1回の胚移植時のみ行えます。	一般培養液のため、回数に制限がなく、希望時実施可能です。
成績	着床率：45.1% 妊娠率：40.6%	着床率：39.6% 妊娠率：33.3%
	いずれの発表もアメリカ学会誌Fertil Steril発表(対象症例となるSEET法無での着床率32.6%、妊娠率28.8%)当院での成績は「妊娠実績報告」をご覧ください。	
費用	胚盤胞培養液凍結費用 ¥11,000(税別) 培養液融解+SEET費用 ¥17,137(税別)	SEET ¥10,000(税別)
注意	胚盤胞培養液凍結は管理上の都合により凍結保存期間は1年間のみとします。(凍結期間の延長不可)	
凍結胚移植中止時	凍結胚移植(胚盤胞移植)を成功させる条件として、①胚移植当日のプロゲステロンホルモン(P4)の値が10ng/ml以上に上昇していることが予測され、②子宮内膜の厚さが10mm以上などが妊娠の重要な要件となります。SEET法は胚移植日決定後、胚盤胞移植の2~3日前に行います。しかし、上記のような要件を満たさない場合には、SEET法後も凍結胚移植をキャンセルする場合があります。凍結胚移植がキャンセルになった場合簡易SEET法は次回無料にて行います。	
	無料SEET法振替はありません。	次回簡易SEET法を無料にて行います。